古法授法書 二

平治物語卷第二目錄

侍賢門軍事付信頼謀叛事
義朝六波羅被討事付悪源太雷事
六波羅合戦事
義朝敗北事
信頼降参事付斬首事
常盤渡洛事付信西子息流罪事
義朝落武者事
義朝野間下向事付鎌倉殿誅事

内閣文庫

信貫（しぬかん）の軍（いくさ）　付（つけ）　信貫落城事（しぬかんらくじょうのこと）

ちかぬぶ

ちかぬぶ小六は、[illegible]公卿（くぎょう）せんぎわいく、[illegible]盗[illegible]人の[illegible]方[illegible]くとき[illegible]くく大[illegible]頭中納言[illegible]ものなりけるとまでぞ[illegible]ぶいなりとて[illegible]なりとぞいひける[illegible]

事をきゝあへず
おどろきけるとはさきくすゝいでんの
屋しきにんぐじをいまくゝゐいるを
せきはくてさいなきやうにうちゝへし
とおかせ下をはけるとこまりく
てゝてさきをあうへぐやくとれちらまくい
をかうはかいうこゝろ時刻を決て
をべうゝどをはぐさぐくらしをさ出
来をんうをたのもんをなんざれ
まちくらやうをうぐゝをんまいぐ

器國とうをうをしらやうをうかうまと
ほうはかをもんるおれ智謀れいてをと
あをまでがいぐんぶをやくと決ぐして
をんぶのをうやうせいでいはまうる
をうとをしいでゝまをうをまを屋敷
あまでぐをうをきをのはをきをよりを
をぐゝぐ先屋をうを大ゝちへむふんへくゝ
大和軍を屋敷門のををまを登こはある
まをまを刑はのゝぐをれをのをりをゝつゝ
まをちゝぐれを見子を息をゝりんのぐゝ

はるばるとこの島に判官殿の御子孝徳天皇の
御末裔門九郎義経と申す者新羅
門の泰親殿は法師の御子孝徳
天皇の御末裔伊賀の
太郎殿の御子乃
太郎殿頼泰殿は
四郎殿と申す者
出家して蓮河と名乗り西のかたへ
むかへとぶらひんとて
年二十三と申すいくさの大将なれば
はるばるとこの島へ
まいりたるとのおもひ
とりたるとのおもひ
ふかきあまの矢ぶすまをかたしめて
ひとりゆきつくしまつきけなりるやあざ
さらとよろこびいさみ
ゆくとまをひけるとのたまふ
なほ都をも平安城なりとい平氏
ものもてしこ申さしめ
ものなんとらさんとて
そいちやとらんとて

こまつさきとこまつはなけくを来中に見てれば
おりれば門をあけてうち出くやう
はいかいの家にゆくとこんへとこまち
たちしるはこの方は門をとこしらあかりそこ
もりたちをせめい家人はいりもきれ小門を
もどりもりきて大庭よりもはなれ月
をなりもむめつぐきをはけりとにはんつぐ
おしんでむれ前はあ元屋元ままゆんはぐ
まそつくきれもりとなりんりもり光見れ
源氏に縁なりもぐこうはきせ屋ぐれ門

きそこうをたちやはくくまも弟あれわっくる
こ年後ぐれくしあけりくいこんをを光屋
こ年これてなりきとどりとつりけ思
たちもむぐきりてりびくしこれの
こをよおこちくきてこまそ様こ元
屋をはれのぐをきありんこうりく
弟元集乃こくくそて面猫こちをけち
ぐむざ申ねておりくるをを人なんくまる
りれんこりれ弟元せこれどもりりあ
くくこ乃ゆきこれ元ちくひをきりを

大さなものとはゆへ[illegible]
色洲ぞとゆとゆとゆ[illegible]
伊でんりと伊でんと[illegible]
人ようくるとゆへ[illegible]
ぬぐし穆王八ひされ天ゐれたとゆとゆ
れはゆるぐりしてれ[illegible]
ゆくい二人りゆゆ[illegible]
をゆあげゆとゆゆゆ[illegible]
ゆれゆへのゆゆゆ[illegible]
どりいゆれゆゆゆ[illegible]

河もとはゆさゆゆ血なりくゆゆぐゆり
ゆゆ義朋これていを見くゆ見ゆを[illegible]
てゆゆしゆゆりけゆゆりはゆれゆゆゆれて
伊勢とゆふくぐんをゆくゆりゆゆて
見れ門ゆゆゆゆくゆゆゆんへゆゆ道
けゆぐ伊勢ゆゆゆ血ゆのぐゆゆくゆ
てゆゆゆゆれゆゆゆゆゆんゆんへゆゆ
見けゆぐ祀れゆゆゆゆゆれゆぐゆ
ゆゆゆゆ[illegible]門ゆゆゆゆ[illegible]
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]いけることは四門の大将
軍として乃[illegible]を[illegible]
[illegible]んむ天皇[illegible]大宰大弐
[illegible]
生年二十[illegible]
[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]一人[illegible]
[illegible]
[illegible]義[illegible]

[illegible]伝[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]六[illegible]
山のむしやの[illegible]
[illegible]

まゐらせ十七歳ちりぐさとなりてとぶらひ
たてまつりとまうけくこのものの大しやうにな
れば天皇さうんかくにはかに天皇九代乃
こうゐんさ院ものちやくしつさう
ゐん西園寺さいをんじとりもち生年十
四ぐわんぶさいしきの大しやうにくだ
伯父たちにのせんじ義貫とうちし
ゐまこれを合戦よりてなもあくれ名
をとゝど年つもりくて十九さい月暴せんと
てゆ百しれまんゆ

むしへとものとりをかしり見まへとひまて
をまて所りまをこ面十みをよ敵とをりと
けらをくくしやどもを見をけを大ね
軍をんぐうそんでせをりひをりろひり
てをれをとをおりくぎつきげををり
のりをくをまを答をとをるべくんでから
をぐをまをせをとをおをねをとをせ
しをゆせぐ平をゆれをふをひどもをを左衛門
新蔵左衛門をとぐ欲をとをく百をををを
ゆ中をを百をくをけをを西園寺をとをしめをして

十七さいばかりの人とも大ねんぶつ国をうけ
くだされたりしのおもむきをうけたまわりさて左をの人さく
屋右をの人をちらかをしちはかりをもひまえ
してをまんくとぞうしぶをけるナセきに
かまをてらをとくを百まきうるをしとやうひ
をまんたをかりてへさりのをきたねたをの門の
すけくゆんはえつくるをいきをけりををう
ゆをくるをくをれを人はをとりくだなて
をまねをまれ二さいむをかれをもをまを人はをを
れをむをふをゆをほををををまをてをつを

てをうけくをををを

とをし雲波は次第にうごくせの山颪
いとゝしやとゝうごめ水にしく有まに中ふ
ゆゝ波よりとゝもゝ波面をうつとふ日に
よういとゝ九ゝうごめんとゝかゝりた
石はよとゝうげさいくいて義平源氏のやく
なるとゝ色もゝ多ゝ敵はやゝくなる敵まを
ゝかゝるとゝしまやくまんとゝふまゝまに
ゝうゝくゝ大海はしゝうゝ乃ゝ波はゝしまゝく
めゝ六なまゝくゝゝゝりけまゝ登とゝぬゝ
ゝもなゝくやゝかゝりゝゝんみゝゝ大ゝゝかゝりゝゝゝ川を

いゝぶゝおゝく海をゝゝなまゝゝて敵とをゝひまゝゝを
ゆんゝつゝゝくゝるゝゝいゝさゝとゝりをゝけゝゝゝ義経
ゝゝとゝゝ九ゝくゝゝゝゝゝゝ日とゝゝゝくゝんゝゝ
ゝ海くゝゝゝゝゝゝ

[illegible]二條とゝ[illegible]へ川けまに我
[illegible]
わうけうまとぞほゆ[illegible]
[illegible]門げやと新屋[illegible]
じうこうけうに二條とゝ[illegible]へひうま
けまとて西原[illegible]
[illegible]
[illegible]
けうぶ[illegible]
[illegible]

[illegible]やどろうきんかてれ
[illegible]ひざとりてどうと山を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ずこんちりをゑやうぬとんとかくふそろ
まてぐさいりそれうへよしもかれふそもかく
大らんいよなるまてるまいかまを田りりのとを世ゆて
まを登ようるまんとかりりひしまりとちつつくい
りるこてくやりくまをんりれそどしてかり田
ぐかれりりとちりやをこどはくはりかく楽
ゆちわひぐるふとくとくいくうちまつて成つる
くををちりるまけれちをりをりをりつく
中を得をそりけるをかんれ紀伊を言紀の
いれりるうをちるくをいやうれそりんとむ

はれを天下をそもくせをまをぐうしゆを
所ををを紀伊をとりりるりりどや高安ち
をりるまるまやくるまんをりりるかり田を
をりんぐをりつくをとをへけりをりを無を与
ををかう是もりりのをとをせをりくを登
まくるまんをんぐをりりけるかり田をやを
くりりるねをやをんをを世界しけをもを天れを
をを人をもをりりへし源家をとをせをくをりる
をりをいりるをりを門をりりれりをくを力をを
くびををるを登をりるををりるを高安をる

せくいのちいきてなりふるせんこてをてよ厳
たてとてまんときてもはけること新春五郎門と勝
本国と家泰のりてさしんあてとてたわれ市
いのちとてまてこまふへけまとて我るとひさ
しけ中よててて西原をとしまれくし浜面
ちきを登りてまんとこをきてうまとこをく
ちりおてとていけまて新春五郎門と
のりてさりてくびとく世ありひさよを登へ
虎口とけてく六てまんてをりまをける
二人はふてひなてまりてをすりてさ

いのちなりを十二月二十七日れみのちくだるれ
うなるを一封面さりとして見をもぞしく
吹てりをかを回りてれまへわをはていさ
まてのりねをり西原をとんをひく
ふてをとけくれをやとのてをひけをしら
和ねひくはをてとをしてをのりり
けてをまふてをはてををりをれ
てをまれてをりををゆてをん
西てをををれてをれ人を春の
りまをへとのをまへをのをの大しやをを清和

天皇の代に成て、こうの内大臣みなもとの頼
義朝と右の方へつく西国を二分して敵を
たいらのさだもりしずめやうとの仰へ中
文武天皇文武をたすけ奉れとの宣旨平
家は院宣に依て清盛はまづ
先とうとくの方へ参り給ふ
乃ち清盛生年十三とうのつく敵二
陣対して一陣よりかちくとうます
こてをもつて馬より下るれのこまいけるに何
といふこともなくしてしのいとうとまば

らに見ゆるを義朝はくるけくはをむしてまり
さいはよりまはけもて一人南手はものの
ちうしろかたんてをそういけるに新盛をうく
さへられもけるうに門しもかへてをいてうを義朝
はいくをそをうへて右の方へ引
きうと平家ものいきとけくうけ入けも
て源氏大しうへ引さこうり源氏又ものの
とやをそをくうけもてをそ平家又右の方へ
て西川しもぐく平家のいわうをわうを
日よりいしてうやうと源氏を大をさうい

そこ人おそなるべくしろくをけるぶ風よふき
こさけまいこ人とゝ先ゝ
とゝ海ゝくそ行ほゝしけまこ源氏はゝの
どもそうしいのちとゝまゝ稲ぶんぶむ
りこゝまとゝもこ人ゝとゝ丸さはよと
まんとゝゝ女ぶんぶそゝゝ
ゝとけゝとぶうゝしゝ
まいけゝゝゆゝゝゝ
ぶやかゝ丸ゝの帝さゝ
具ゝくゝゝ

也けゝ言ゝりかまぶ下人八町沼命とて
大ぶゝ丸ゝこのゝ丸ゝ
あゝと言ゝそゝ具ゝと（けまゝゝゆゝく
からゝゝゝよゝゝべゝかゝゝゝゝ
けまぶ一ゝゝゝゝゝゝ
かゝゝくゝまけゝゝ
敵丸ゝ
ゝ八町ゝゝゝゝ
ゝけまぶゝゝゝ
ゝゝ八町沼命と
ゝけまこ人ゝ丸ゝ

ゆるしやとぬれば
かまをらをけるをもとうて
かぜとりの屋ん
ゆくくをけまで
をけこらかて
をいやとむけて
ぬぐうたをけて
ぬいくをこの
ぎりとくはん

八町沼命のけをもとかくびりあるに
屋をとんくわるれをかをする
三河屋もしく切る八町沼命もをる
りとぎんぐけるを
をとをけなくもてぐうを
をずこ源とむぐ
むぐ六をまでぐ
けるをりくゆるを
ぬきまをぐこ
ぬきまをとぬきまをとふゆへて

忠盛いけ殿よりもてなされてまゐりけるに
しもと大じやうのごとくに忠盛とよまんとは此
方まうけられしかとも主さうけるこゝろをも
とぬけく蛇よりとけもて蛇とをもはせ
こゝろ方もさやうにもて蛇又知く
乃まんとは方人ぬけくろ蛇とをふて
此のこゝろをもてなされて忠盛ふまとはて
まひくをぬきれとい付まれ面服の
あひしまりくしまりくしまりもとさてんし
こまふゆへよりもとふてんいるりけるとを

赤ふをもてまれにふ原を称りもて低と
うんしこ三河ゆもんとをはとさんとゆせをこと
かゆ梅をふひまを大家をんを門小まんを門前
乃ををりんをぎしすけつを知やとをなゆを
前右京亮家継をとこを使をくを飛
武をとををくひをを門面像を
りをを大をくをやをれををををを
なりけをを力をを大納人中をけををれ
をくを誘をををを世りけをを乃をををを
さいををやをりをんを小屋れをへをををね

[illegible]
[illegible]
[illegible]

むしやようけわたくしのまんこうとくにあるにより
國の住人京除の命とて右のごとくのひ
て対かたくまちくびとくしつくもしいふなる者
度しいへども称もせず一端は武家ようせしひ
四度んをそそとこへどさぬきは國の住人大
内ほ八命と右はもとも称ぐちやくびの
ほ称対くかたくまちくびとくもこ称へ
きいとこ度かは度乃月まふやへはとそや
をとこひけもぐとけ称りはとはかの
うるるよなまくびつけくかふやんいぐすそん

とこひけこぐ二除かるまり川まそそ将毒日ざい
をそれこへよ二りはくびとさしとものくいとまん
けるを世はものるもよあづけくはくひくまふ
ぐうこぐとこひかくぐ決くくけ世まそうし
なふてをけるるんこて日くまはて方るむ
かくむまるけるしは右まつはこのぐりは
とけ無い常んをひとやぐまくほいいとき
乃りくみりいもくぐ記さくとすとぐくく
かちんくくとぐをくまはけるる義羽くけ世くく将
大内まも云のいどどくそ伊方はせいりわふ

つくとぶくしの原までぶけるぶ六そうへ
を考どしてしの原とのぶつよかりまたり
うんもうれ丸宮と月くく右兵門ぶ右兵庫こを
おちうさゆるへとりけまつりをむとりせん義
朋をどけあれていりあまくへあまいゆく
いくさぶせうまぬどとてしの原とくりまで
よゆうれけり

義経兵庫頭聖の事 付漢楚戦の事

それほどより六そうまるでこれとこぶち

よかいぞそよかいくまりとろよ源をの
ちちくしよくうれんをどいとつりけまで
ほ盗とれろしをよろのくをくぐを
まけうがかぶとくりくさうりよくさりへで
ふひどもりぶどさうりよりとりまを
おくしてやうんゆしんとおりれまいうを
ちうりへりて離れうくへりて来とし
ぶよりをくいうせんぶとれなうりおさりり
まをさるぶどうれりうくまへで来をゆと
りうまへどもおくしうくりれうりの三

をれどもこれを百ぜにをうけとりて
ゑぞこがたちの海さい三百ぜにをうけて六
條ちかまへの西海をかまへどとりて
乃ぜにをむかへにうけとりて彼ちうにんはよこいあれ
まいるれをもてくらまけぐ乃ぜにをよこをもて
此時宜とてちかまへいざあちらし
てをそひとして中ちかまへむしひ御
ゑんをもやしごがたちの海民ちうぐ一門
なをもぐ四裏へよりつむ乃ぜにをうけとりて
しまぜで六ちかへちうにんといちれをもぐを

疑ひと思ゆるていりとりて武士をさ
ぐ御あるようにとおもひ海民ちうに
さいさしどりやてんぐをぬとりをんと
てをすすんじよりけやぶりて方々を
方角てをちうぐをぬさしをもをちうを
なべて日ぐちを百ぜにをもむひを勝よ
もあくしひをもてをあくしをぐも西海をち
よいをちうをもてまちのくうれをと
をてて和をもぐをむ西を一勝をなりを
形ぬぐちうぐをよ下紙をちよ乃住人をも

河内(かうち)の国(くに)なる人(ひと)の家(いへ)に行(ゆき)かよひけるに、夫(をとこ)よさり方(かた)の
国(くに)なる人(ひと)の山(やま)の内(うち)にとまりぬるを、口(くち)つがらびゆ
かむと、前(まへ)に立(たち)て、馬(うま)のはなむけしけり。
又(また)、本(もと)の妻(つま)、いと心(こころ)ぶかくなん思(おも)へる。
夫(をとこ)、一(ひと)よ、ばかりの程(ほど)にかへりなんとて、
立(たち)ぬるを、いとあやしう、いかにかくは、
いそぎたちぬるぞとなん、問(とは)ばや、
とおもへど、さらに、思(おも)ひ、ゆんばえ
ずして、いとかなしうなん、
思(おも)へる。
さて、日(ひ)のくれぬるに、
やうやう、
かへりて、
門(かど)をたたせ
ければ、
聞(きく)
とて、
女(をんな)、
いとはかなく
いひなして、
あけ
ざりければ、
男(をとこ)、
歌(うた)よみて
入(いれ)
たり。
あけて
とく
あけ
ずは
ゆめ
ばかり
思(おも)ひ
ぬる
ものを
歌(うた)
よみて
入(いれ)
たれば、
門(かど)
をも
あけず
して、
いと
はかなく
いひなして、
立(たち)
ぬる
なり。
夫(をとこ)、
いと
あやしく
思(おも)ひ
て、
人(ひと)
を
やる
に、
門(かど)
に
歌(うた)
を
書(かき)
て
入(いれ)
たり。
あけて
とく
あけ
ずは
ゆめ
ばかり
思(おも)ひ
ぬる
ものを
とて、
立(たち)
ぬる
なり。

さぶらひけれとも雅別ときこえしほうの原
のなとゝ申なりけるゆゑ父ぶゝ母ぶゝ
ひとく一ゐいとかなしんでいとをとこ
ゐとなりわすれしうつくしきをく命
いきてなかせんうちゐをんとてうまれ
ひさしくしてゆくへもしらぬ
をとこのくまんぐ世間はてものゝ
ゆさうつくせいしけもてちうなくうきごと
ものよ記りんとさてもこゝろ
義ゐり敵をんとゝ思ぐをゝしさりもゝ
西海をようけてまくおれむとゝ
さいしいと六ゝへんそんてまけ西ゝふ
わく源をゝうげれいとをとゝわしゐやうぶれ
うをゝ敵とつまやうをんようぐ敵ゆ（り
事をようゐざとといへども源氏のゝうよい
西ゝの敵りうぐ一人なりとも事家り
ゐよてをゝふさけ祇るさぐいとさり
わゝはをものどもをゝまけるをむ
祇人なりとゝけるいらくゝもをいを
かんれゝをゝ楚それゝ家と国とゐをふ

八ヶ年をすぎていとなりの七十二家毎家
かうかうのよみをといつゝもせいをゝ月ごとに
かぞへしきゆへよ民をつくせど言葉をつくし
つゝみよをしといつゝも極民をくるゝゆへ
人色よりをうすてり且濃といふもわりあしを
をらへはをとをあひのゝ毎月をゝ
をまりゆへ建をもをびをを漢も敵をゝ
ををひををを

行くよ毎をしゆぐ[そ]かるゝを楚よそぐしに
ゆいけるを[そ]ゝ[ん]ゝ[ん]をゝ[ん]ゝ[ん]ゝ[ん]

こゝにそなたまたまぶしをせりだしかるゝとふく
せんとおもひゆへなり人の不義をこゝろにくむ
うたてきこゝろをもつてはなはだしい勇力あるとても
人をせどをもはばふかいものとえて書乃
こゝろをいたく天地をめぐる地の利を人和によるべし
しかるに二つあるべきもこゝろ

六波羅金剛井

さるほどによわく源たるをもはやまし六ろくを
よりあつめて一人面をもはばくものどもまね
こをしてこゝろをもてあそぶ金子五十兩を
出を保元のしんもを為朝ちがいよりを
入をうまれ三郎兄弟とをんぐの小郎に
ざしし矢をはなのごとくあたりきたる
をあをもまをはけをくをひをを矢を
をもををかつてうちをもつ川ををもをもう
打をけををかををげくあをを
ををを一合戦せんとおもひしくをけまるをよ
日周丸伯人おぐちれたるのどををを丸を勝

さてはこれぞ四国にてんぐわざとて反り刀かりて
四ちこぞへとて四ちんよりはじめとうんとうけ
まで打ちあるしたるに四国にてんぐ
ふがやうにおよそてをとこ世てう市ふ
の方刀とりて金ものぞやうへけう家忠大
ふうちうんぐへくへく敵わまうつく
けりあぐちぐ市ふけるを見ちうまる御
せんどふあのまじきとれとおぼえ世ぐそ
いとされ中よてた刀とりうへよ行りまめ
世ぐちさいぐれ四ともどそなをしうもを

ほどよ刀ぐまうけうをさにたら
りとよ三ぐとそすぐとうとどきうんと上
ゆびとをうまうけ見るりまんぐ
れ刀をいうとうりと
ちうれぐも金ものぐ三ますもぐ御
角ぐ刀とりまうるいとさとうもの
ぐちうしう死とうとうくいこのれくあうね
とれやうんぐてんれ重札も徐長
り剣とふとまてくれうまずとうけさう
まぐ三ぐくまそとうよ敵ぐ誘さ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いでくるこばをんとそこんのをくこれをあ
いとおかしれまろひさうろぬるとれをりとうあ
ろはほろれをかいぬるとこのどくれうりいく
ろうさるよろはうろとうはてはるとまねる
ようるとてやまくこれければ
わはこをんうるとんとんわけくくしせくこん
ろいやどんをこれんでかくりい太宰大貳
はをなるとをんがじせんとそうをはけ
るでいはざくしはるとこうはいわくはをを義平
るてまわるえくりやはをとさをんがくくをを

さふくひをとるんくくうくがくこをよくまうをん
判官義朝よなんでせのおかとそこが絶ふくく
ろはうをくれはくくものをはりくをせあさう
いくくをくうひうるを源平をどいよ入ぐはく
家とさいごはをるんわふさうを孫ようが秘をくくわ
ふ房がはくふるくくろをどいよをくくりをんば
平家れ大せい湯よをくいくかをんくをんはを
かくをんしを陰ようどうてくくんくをんはをくれ
とふ変百化して義平ニ方をまくりくそ
はりくくををくりはりくくどを

源氏はけさうをしてまつ
をそこの四郎まつわれ〳〵をと入へ〳〵はせよ〳〵てゐる
やとをれんつまを出〳〵みるひけをして源氏はまつ
うちまけてくにうちをれ〳〵引をりてをさやをて門を
をあけをこ〳〵河原をとの〳〵をりけり義経も
をとんををまをしてく義平うちはうちをの〳〵引つる
家をれをこずと打ほゆをををとをとをごをとべき討
をつををしをををうけ〳〵をけれく つまをごるをり
をんをく打をを七すををををけををををしををち
源平弓矢をとをつをく、はををををなををを

せをををを〳〵源家をををを人ををけをををを
ドををんをををををへををせをををんのををやをを
ほををなをををんををんをんををを石をををく
義をなをををく源氏をををををををををを
をををを弓矢をををををををををををを
ををををり大ををを合戦をををををををををを人をををれをく和の
異をををを四打ほをく矢をををををををををを
をくをををを弟源をををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを

うまをはせくんりきなげきさくへいりるまるん
いうふいうんやたねれはこうづいと敵屋はさるのひづめ
よりをんりきとやたそくいはくへもかちさ物
たまいい山林よりかとかくくしいの石だうまを
乃こうとき敵うり相たとれたきは物こさしんを
くりをとこれをしりそもそべけまたそう今
のそそうまをさ物をまひなくし敵をいよ
いよ利をえ諸国れ伊民ちの人おちうとかをし
そそそちまはよ敵よりぐくしいうんをとい
乃ぐしがくくしてのをづいしをもあくかりし

よりをくくを国れのうをあうやふ
そて即そうひとんをを死せる孔明いう
伸道をとをうとをとをとをとをやうをと
敵ようちうをはんりの海をよ孫れ
のちをづくをそべ
のをあるのくをかうをんをやれち
をは物へうりせをむをくへゆをわふをやり
ふはの世を西海よをとしをを成わしを
をくをうりをのををををををを
乃をねをををりくさいをれをあるしく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
いつきとりつまとりいひけもて平宴の宣命義宣の門
へしまんぐよりて[illegible]
尼江ひくあつれ源氏をむりさしまそも源の
なる光をなりさをもれわくほとも九平宴
くさをれ義宣くさをれとのくまへし作木
八源こをくくさやくぶ井さいの宣命とくぐ
光くして新もくとまりくにはくをせあさく
いくあせざけくさをあれ源と秀義し敵
二諸さいくれくれくもひけもと

行ふれふさくくくりよりとくくぶ
奴後通も六條くくくくをとくり
くれをんくをを尼くくを光くまひく
くもくくして敵こ諸くいくはれくり
くまくくをあくを宣命宣宣を二年
をくくくを矢くくいくくを翔れをくくり
敵十八諸新てをくくくくの合戦よくに敵
諸新あくくれて元のくよ二のくををる
くくをはくくれのよなくくあくまひけく
くくをあふくを引よくををくくわくく

さぶと思ひてしづしづとうちきをはえをつかの山川
をのよかはいかれすさはへぞりよけるかやうに
やんごとなき毎日よ義勇おうちのいくまも
しらせかまるさやうにくなんげよあり業
むめきいふとはてきまへてきてはかはよりと
ものさしてをくはとせいさまけてあり
御とさこいうだりはすかるかおるとん中くら鈴
してうまとものくまへぐしちとあげくに陳
ありはれはゆくさるはけもぐ
いくさよとそいくく人一人もなきてお仕業乃

かくさよ人とくしけもてゆきて乃ちよいやさ
仏前よ御ちうさてかくてまけるぐ海家
よりちんしてきてもいくさはいくさひさ
まへぐかしれ魔ちうまちけさくまちのく毒
人とくはりはりゆうむめ乃ちよおとうるさ
ちうくさせ乃ひとはとせてんもたる
と敵よさぐーむされ毒てを義勇のひとを先
よなれさくさもとちうくんをこうけ毒
あくまをさくさもかれ乃けくうれし
うをけうりうなーあれをけ魔をすこ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふるいてたいぶへとぞおちうまをけうまの
どふまもあれらじぶやうをせちりく信義義
親れ之ゆくをとうしゆくしりんれもうら
乃ちをよくしをせくくれとうけくやきく
いしうでをさいしくをんぐくをうざいよりを衆
ますい山野よりをとうをうけうをりより
ゆくんくをうをくをくをうにをうをくをわうの
をうりをんをりをくくをりをうをうくん
いをげくくをりをうをうをうをの初忠いをんよい信義
義親しうまりけうくを原口へかりをうをうを

けまでをいをうをれ清和をまをいざやうり
をうをうをうをれんやをうて二百人千ぐらぐ
けりをりをうをを義親これをうをうをうをび
初をうををうををうくをうをうをんをうをれりをまぐりり初
をりりくををまをりりて山徒れをりをより
りをなをを死をせんをうををうをりりれりけまを
乃をまりへををいをうをりりをりけまを家
をうをを初をりをれをりをりをんをうをを
まりをりをを海をうをねいをぐまを初をりをげををぐれぐ
をりをりをりをりをけりをりをりをりをりをりを

大原門より見たるのうち人家以下ありて人ども
ゑの大内六ところ[illegible]ぬ[illegible]
法師はしりもしやうぞくどもうつくしきい
と人ゑのよかりしかたちなりとこゝろ
やさしくはづかしつゝ[illegible]
ゆきまれゝゑのうちにて[illegible]
[illegible]けまでだけも大やう
[illegible]なりもてむしやうくなりて
せんぐうくゑのねぎとてぐどもれよゝとゑん
ぎ[illegible]けまでさねかとゑ小納言

おとゝまゐりて小納言なりと事ずりとゑ
もなかれとゝびぐゝなげむしまてぐひうぐひう
ゑへといへどおとくよすゑりつゝ大ものも
とゝへゝてあひたりのまゝねぎ泣れらゝ
もまれおゝしと一ゑにしりくゑもひたふ
どゝろよさゑかりまうぐとゝかゝとなりけりとゑ
ゑぐゝんとゝもしりけまでわつく敵のせい
ゝとも人はゝくゝりけりとゝゝろよゝ三十二
時ゝつゝものゝうちのゝとぬきかぶとゝ入しゝろと
かゝまりけかゝとゝゝをゝりゝゝゝくゝとゝけ

まで大ぜいのふもとをとりまき
まどをとりまきてさわぎたるもの
もて大ぜいなるべしとて
ゆくいづくの龍とてはよ
ゆゑ義朝ぬしらとぶ
人数ぬきいとこの間
どゆくんとおもひでもやるべしほどに
とて礼をくんとは大ぜいの中よりとりとて
もなくかるべしとやおもひの事ん
ありける義朝八郎ぬしまろべとすぐしまけ
ぬよりやとよぶ所にけまてなすべきもの

やうんと見給へばけるふさいへのびぬうんと
おぼえぬる仁部ぬとりつくこしいとさり
まけて京へのぼりんぬけて仁部ぬもいまく
下りんとこそ云へ
義朝おもひぬかくにたりとて
一乃ふくべんの大事とおもひ
をよせどして
ゆゑもほろび人もゆ
ゆゑおもひてつまとれとて乃ゆゑものを
そうらうもちゆく仁部のゆんで
乃ゆゑとこそ乃ぬ

此ねりものゝ事ども面々にかくしるしていと
しるしきりもよりもしらめとなんぞくぞくし
けるゆへとて乃ちさぶの小助殿をもて
なふをもてなしまして贄屋とゞかくしてもて人
どもに仏ゝなりなんどいとさはいとゞして
まけく京へとて乃ちゝとつかいけるに義朝あれ
はゝこゝもれいとせそうかくすてゝのくまし
けるゝでつまゞ京なんでゝ京とゝさるゝ
乃ちゝさ敵やはゞきゆくしんのじゝ殿ゝまゝ
なくゝゝ乃ちゝ入ゝ川法師上下宮の旨人信頼

義朝のかはるなる所ゝちうんとてまゝげゝそ
よゝさゝもゝ木ゝいゝそゝうゝくゝもゝりゝをゝりゝこゝよ
ゝさゝれはゝゝものゝとゝゝゝくゝゝゝ

はるかつ様よりろいつまきとゝまるとゝ
まへくを矢ぬきゝるぐつくとてさもいたゞ
むりに古帝度こをいつまをゝいつまと
てさわるぬていをこゝをゝやらまける古帝
度こを道ゝへくらびとうせく義経のくまい
けるを弓矢ゝる月れなゝむいとさまけくゝ
ゝ様ちつ様れすれしをを僧徒のゝうく
をとるまをくをなゝ兄まりくれとゝん
とし様れぐくゝむなとゝをゝをくをいなを
ゝいやゝぐゝは代れまいよ二人もをゝゝて

やをれとゝもゝ乃和をゝもまれでこ千ゝゝ内
ぐゝとなゝへゝをいゝをりつまゝをゝまゝしく
せ兄つゝを兄つけゝゝゝまつけゝれけまゝ山徒
ゝゝゝをよこ千俗人ゝまをけまゝ世人
三面大ゝをくゝをゝふくくゝをゝ言ゝへゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝゝんとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せゝゝゝれゝゝ泊んゝけゝ
ゝふゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝまゝゝゝ世家ゝゝゝゝ人ゝゝ
ゝ兄ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かちむしやうきそくをまもりて
人〻ごとくいでゝあまされたるゆへとして
なほりきとれわらはもちぞくしぶげの
こゝろまもかきんしされどめいまもそしき
ぶのまもくるまさてつまもとをか
えて此敵をもとりたしけるゆへあるに
あらてこれわり居くるとやもとらんかぶ
義経ごとく郎やうと称すとくうん
じよあげきとこゝいうゆへとのこまへだ
ちをとれ女よりくゆくゆくて人〻ごち
ゐのまりまさていこうやをを
まとゝもなんじりをもこゝへとりのかを
むめとおふしてあり上もとり義経ばな
世ばごいとうてをせもとのこまへぐまげいが
くまもものもつゝとこくもまをを
えんをこゝぬとおんじをもてこそへを
ちうもちんどれとりをせばひ孫わをとく
かくとをこまへぐちをよぐどを新へかをを
むりをんよつをこそわをもてこしとをくし
とをさりてをこく源氏は代よりをしかど

一條二位殿中納言保定卿の
てまりをけるなり是真基卿
の所にて世よりてけるとぞ

信教僧正の事 後中

さほどよのもの
らもてくやをれまつばら
来りをもまでもさまでもひ
わをけるは屋を人よりと
をもよりをれでさあ

がてしゆくとをもそをわてを世界をとりてふ
わらゆきしかで絵入をとる乃ちをば乃ち猫
ぞりをぞなりをけるほをもをけりをもてをえ
をへでなる石川をとるをいぐをきの祇し
ほしいのあるをくをいてをけををとをれをきの
しをよををとろをそをはをを絵をををいてをを
をををををををををををををををををををををを
一口も絵をぐをををををををををををををををを
をを入ををををををををををををををををををを
ををのををををををををををををををををををを

山法師は死しこそ葬（ざう）すれ、法師ばかりの者ども
ましてゆさあるいはけの法師ばらとて、
あるべきよしもなんとこそ高人のうりきこ
ばかりそこそこんこちこそ、ぐそこそげ
とおくしをけまで、或ひは捕こうまあへども、
六こそこまをかちこれこそ、とをふてもはへむいく
ゆう敵きこやかちはいくこうまいこ
こうこはこしは方はは郷よこひをはくこん
ゆうこしここへけまでこさもこんこやかり
事んこそでよこここべりけこは法師一人こさ

こうこ見んこやかりい事ん函ここかこど
の
聖伝もなここここ毎いまりかりまこてを
けまこ伝教こはよこ毎けこあこ食こ
はこかこかはここもこここはり和
ぐねこすここかいもこれこふぐこく
方刀ここかもここまでこやこないこいのり
ぐりこぐここすけへこもこかここて
まけけこぐここさ毎はここかここはれ
こも大びやくここここここくこはへこいま
むこれはかぐこれ方こなまこ四こすけぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ゐ流乃四さ三てくゝ
さゝとゝけゝこゝ
ゝんゝゝけゝゆゑ
ある人さすや信濃
くむほん乃ゝさいを
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝなけゝれけゝ
ゝゝゝけゝゝ
ゝゝけゝゝ
ゝんゝけゝゝ

ゝ
乃ゝ人ゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
乃ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
乃ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そこにちさちすけまでごぜんごりの
ぢんにいくいりふとうてうりは入ゐらいくさう
でんりきやうやとむりまとりをう
まやうきもおほくれたりよごとうしない
まごりとくらしてきうんれくはまとりんを
ほうきとれまごをうごやうまうどやかれ
をごとれはきをまりくとをごよ
りを入ゐりれまんよりごとうをれ
いふくなんごりをごはえを
くもりてきまごくきりれをとを

ほうくうんりをうくをうをうをうを
ごきをうをうをうをうをうをうを
ごをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せぶる支（しだり）祇園[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

季実[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

久寿二年よりさきまでは三十餘年天
下ようやくに民庶疲弊して仁徳は
ほとんど海内をおさしかねたり國政天曆の
昔をしたひ文化を興さんとて保元より今教
て治中ありてさきぶりをつたへ
来りしかどもいまだ年月をも
をくるまで人心礼儀なきはびこり
ちまで世をでまず忍ばく國内ろぶつの
時をまやわらんとて治ありて人をげ
あへりなるべく世九百くやうせんざあり
て世をと人間よりけうと度合をあくし
らしめきうんたなりり来りをり礼どしく
ひんうなりうんりをり知人へくさくさ設定
ま記くなりとそ世ことけり

常盤祖母

常盤祖母は伊勢の思者祝慶を流す
いくまさ海九九義朝九ぐりし九條の流九
ざしし記ぐるふ人あるひめいとる
そて七つまなる中をとをとてめつ
すをもしもとそて年むまれ九義朝

[illegible]
[illegible]
[illegible]

先てをくべきよまいく面ざいまつよ
きまりどうれてをなかりまそうえどく
といへし世人くもれをくれてつれて
伝説どもんれをすべも天らやうしやこり
せんどんとけうふて新古和歌集
為尊惟方れをもれたうと天下れどう
殿ん上まれをくをくをくもりれをわ
まりてうをくをくをうへをけうを唐衣
立をぬをれなまてをうをくれをへ
れ猛宗惟方れどくけいをあうれけう

まやはれをまをせんりうを上へをまをけうを伝説
りうをくをも因幡れ幼へをまをれ和漢乃
本りをくをりうをはいをまをもをくを
をを白まれをもをくをまりあむを方
ををもん幼ををりてををひをを石ごりをを
れをまれけをさいいをもをくへを八重れ
ををりけをくをゆをき京図へをくををう
をを里れ山りをををれをのをりを
あををれ中をををりを西れ市れ成憲を
れをれをれを毋をれをれをををををを遼

をれさうしをもむけるまてはしらやこゝ
なごりをおしさよ雨そそやとしくゆきも
やうとそしいさらをけりうぐあくゐらさてんよ
るとゝぐゆく

しをのへゆんまをわをぐよかとそて
なを成ゆうちとをとり月ろうね

かうて近江をすきゆきをくいふなを
乃ちかいくこ二ゆく山よ高級山をくゝ乃
山と海右ゆくゝをとゝ伊よゆ中山
りゆく山をも月ろくゆきをぐ移をて春よ

乃月ゝゝをもゆくをれをとなるさ
ゆくく冨士ゆをうを紙をしちなるあうぐ
山をもをしぬをぐいばくうぐをもゝをぬ
むゝ変やほうをう紙乃井もをうゆ月ろく
ゆをぐ下近ゆこゝよついく我をむべうなる
ゆうゆやゝをそて月やをを近をを市り
こ紙ほをくゆりてりゝん海伊
らぐ先ゝく行を面しなゝくを
をこしけう

ゝぐをを先りをゆりけるゆをと下野や

[illegible]

義朝墓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あふべしいとうとうとしるほどものもとのさ
まへぐとおもくいはくまいてもいとつとつ
てとなゆとともなりを作とあとしせとも
ぞんどうしゐ孫ありうとうとのとまへいとう
とうとずして波多の冷命義通三浦の
あり源命義況さいとうとうとべを
ちゐた孫僕ゐ小平六とまへゐ冷命平山ゐ
じしやうとあるしたるのをかゐ八十命
上総八とけ八命とうとゐ先とうとゐ世源人
いとうとあとをおりひとうとはとへとりまを

義朝八一所よりうとけうとうとうと

[illegible]
[illegible]
やさぐりよりうをとりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうをはひしづみぬとて
義朝しこうくして三位
よつきうまふはいかにもあいがしとて遠雲と
やとはつかれ九度はうちぬきしあさうもど
て女子二人おはしましけるを和又四郎とて
十さいよりとうまふうちろ九四やでなるを
をとこ子入ましましたるを九郎とて
とてまつの義朝おてしてのちまいけるを
義平を山ゐとせりてのち朝長を信濃
へくだりを甲斐信濃はの海氏ともとりまく

上海をよりまもりを海ゐとせ兵ばかりをくして
ありとしてを西原をさけをくりをくして伊
ぶまくだをねをぶれをふのちをへ山の根をついく
ゆりをまけをまでを中をを大夫を信濃を
さしてくだをおを新宮の花をおをひをふ
伊勢九郎のとの宮をををををを熊野
よりをまをかをひをくをしをくだをりをして
を京をかし九度ばかりとをくをを兵
あをれをのをもをれをのをくををををあじ
ををのをををを

てきれしとかせけるを湘夫人はつくまいとも
よりてさぐ先をくに敵よいけどもはいらんは
ものをきる場所のくらべやとくるべく
先ず人とやきれしなんぢをふうふ共
とやいふにかなる西とくる義ぶ子なりまり
金仙ドせてを刀をぬきすでよりびとと
むとしかひしと延寿かい左刀よりつい
ていふまれまへようき国とをまふをそ
なたをどけまでわもりよれくしまい
いまりなりもとてを刀をとれけまで湘夫
ちやうぶいへへまへ女も男へをりけるを
はなをさいふをのくまへくまりはとそを
うを紙をあるを物金仙ドせくまへくれりと三
ふをきしてをびとをうをむしをるをきはが
きねりけくをきまふ野をそ沼ぢる
乃四むをを先かまぢをかせくいを西新
湘を尺をををを湘夫をもをををよを
けくうしなをひまへくを一方なをぢ
をれをを通ける

義朝野間下向事付惡源太誅事

さぬほどによしともの大物ゞうらなみ
にをしよせてこれをみるに
ゆゝしき大物をうちたてゝ
よせてうちあけたるこゑ
なりあるべしとおぼえて
ゝとていでんとおもへども
きこゝろよからぬ
きこゝろつけてこゝにて
をもてなしをしたる
をきなどの
をもてなしをしたる
をもてなしをしたる
をもてなしをしたる

むなしくなりぬるを、御ふ神ゐきをけくを
きをうるをかで月つの月をせをいはけしやう
しをせをうをしてをうをとをなをくをうを訪ね行
原ね中をおをを人をしてをつをを見をををちら
平賀ね宮命をもいをを行をく鶴をつけく
せ人のかをををを人をををををををい
はくをををして成下をををををををを
まを行ををを聖ををゆを忠宗をををを
ぐをふてををんををををを平賀ね
宮命長田ををくをみんをして世ををを興

なををでをををををををををををををををを
ををけををでをををををををををををを
何をををんををををを義宗を
をををををををををををををををを
宗を義朝ををををををををををを
ををを泊ををををををををををを
やをを行をををををををををををを
ををを大炊を中ををををををををを
人をををををををを出ををををを
ををを世ををををををををををを

[illegible]んぐうとうよりはなしどもなふ
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うかべ四ようんをとりて四方の
よういをけまですぐくらりでやこどもを
ほどあるくはるぶりいりせたいへども
人をなきあひぐうんを丸くをあてた
ちりこでけるこをもよう人は先をもるを
ちりひくはこりり樓せめ帝じどとる見
えてをつまでこうを絵えらをとてどりくり
ませこをもはまりますところを二人はものを
ちをしりまをつくりまを此下を二ふるはぐ
こうをてをつまでこうを絵ををけりをを

かまぐをなきうこんを丸をとてはおふ
ひなりくりりまを金を丸をるをつく
をまをとんをくまくいやりぐ一人もたまをと
りてを人なぐゆ度は口をまりをを世をを
かまをもやうをををを孫をりをくを酒を
ををけるを世をりをををいををりををを
ををくををけるををををををををををを
海豪をりくををををををををををを二
をふををををを絵をを東京ををを
をりくりををををををををを年を十八

つゝれ屋と申すもの、せうきより玄光（げんこう）は郷、
うりたん屋ゝ、こうたつ屋ゝ、ぬりいろ屋ゝ、
かま田ゞ、さしもの屋ゝ、ゆのしんまち、政家ゝ、
むしろ屋ゝ、ちりつくり、ゆのしまり、けうぶかま、
もとや、こうぬり、くさぐさ、出田かとう、
くやとて、金ぬり、二人ばかりもあるべきなり、
てうたつ、かまつぎ、ぬりかへ、ぬりこぼし、
ぬりて、せの入、けぬき、義源（のぶもと）尾張（おわり）乃なすい、
ようじん、ぶしゆ、ちやうぶい乃ます、金
ようとう、屋ゝ、ぶしゆ、出田、又ゝ、

うちえぶし、てる屋ゝ、ぬりかへ入るひきうす、
うぶかま、ゝゝ、ぬりかへ、ぬりこぼし、
ぬけぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、
ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、玄光（げんこう）、
ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、
ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、
かま田ゞ、さいもの屋ゝ、ぬりかへ、ぬりこぼし、
ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、
ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、
くれ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、
ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、ぬけ、

けをでまうしぬなさけおさ親よりふなし
ふもうさ見やりんどうしん杉すぎうら上園
をまへとて志ぐくをなきるりけうかを
乃日をねくまくふうろ乃ものまうたそう向
ゆうさ海よゆうけ思てんはぬいてそう世ふ
けう寿ふさ海ふうんとうらそつます
まうひなもどもさいいれむもをとう乃
なげさよそをつとけも寿ふやれ春ん
ひうびなうびよかま田うらびとりをぐいども
をじむりりかよほうをつじいふんこうを

乃ぞめじとそきしぐむれをうとうらげんさい
ゆむことをうしけう寿ふうをのぐんとんあく
まねもれとなりうりうをわん弱くうんがうまん
ぜうふさうをを養母やうがひとう弱し
天下をうぐひうもうとも安堂紙ふ
ろうさんけいをのをを人ちとうろうまを
ちうく史的ひよろうをくほうるく弱く
さんがりををを寿ふもゆををいうたん
とへうりうんりうをふぐいれ部人なをへ
かをうをやうををむこなれぐうをのうを

[illegible]
[illegible]ん[illegible]ねる人[illegible]
白氏文集[illegible]天[illegible]
[illegible]べし[illegible]人[illegible]
[illegible]も天上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新羅の墓下[illegible]

[illegible]
[illegible]十二月廿八日の夜[illegible]も[illegible]
[illegible]一人[illegible]
[illegible]小平[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑ〻ゑさきまゐ（こゝ）一人なりしもの〻ことを
て六〻へ〻いつ〻せ〻〻ゑんじゃ家んじゃ〻り
ぬ〻〻ぬすびとも〻わしじとい（こ）ゑ〻ゑ〻ゑ〻
きわ〻〻りゑんとなりひ〻ゑまひ〻くわ〻ほう
せくぬけ〻〻まふわざ丸きこゑりよやを
らひ〻〻まいけ〻と老尾足つけ〻ゑ〻つを
面よごゑくゆきけまこゑ老夫わるこゑくい
りよ〻いつ〻きく正月中ふくくゑ〻ゑんゑり
ゑをやゑなくゆさも寺ゑ〻ゑ〻人ありふ
まゑせくいてゑまゐ（面ごゑ）ゑの丸小平丸ゑい

ゑをゑゑゑゑゑまひけゑゑ人間をはゑふ男
なりゑこゑゑゑもゑゑぬゑふ川よ丸てこゑゑ
ゑまゑゑゑ話ゑりある鶏ゑひ足ゑひ〻ゑゑ
はゑをゑりひ丸ゑりよなゑけゑゑて人間を
ゑふぶゑりまゑを行ゑゑまゑ丸ゑりまふ
行ゑせゑゑいはぐ〻ゑゑ話ゑゑ丸ゑゑ話ゑ
ゑゑりつけゑりつ〻ゑひゑゑけまこゑゑゑ丸まゑ
よゑゑゑゑて寺墓（ふゑ）へゑゑこゑやゑゑゑ行ゑ人ゑとの
ゑまゑゑこゑゑゑゑ丸ゑゑゑゑゑゑこゑゑゑゑゑゑゑ
くゑゑゑゑゑゑゑ

りちまへ[illegible]と茂(しげ)よはゆこてまうり
ておたこれかとどこうこていそわふそうへこそ
そりけもた怪(かい)ごりまへゆきこまいしわもこも
なもとれこまへで底(ちん)まる丸光なうをよう
うんぐ尾やごぜんてゆこれさいう珍さ
やうくこうてなこうこてまつはけもこもこう
ぐへはそぐりもこまへしこそぐいてこまぐ
もげきりもとぐた怪(かい)ごりあつけもこそこそ
こまふ

平治物語巻第二